

1 自己評価及び外部評価結果 (※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100043		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名	グループホーム潮風ひだか 【ユニット名:さざなみ】		
所在地	和歌山県日高郡日高町小池23		
自己評価作成日	平成27年2月3日	評価結果市町村受理日	平成27年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3092100043-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成27年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>田園地帯の中で四季折々の風景を味わえる環境に立地しております。入居者様が日々の生活の中で、役割や趣味の活動が多く取り入れられるよう心がけております。また看護職員を厚く配置し、介護職員との連携により異常の早期発見や、緊急時の早急な対応が出来る体制を築いております。介護、看護の連携により看取り介護への対応も行なっております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日高町と美浜町の2つの町にまたがる敷地内に法人の運営する2つのグループホームとデイサービスの3つの事業所がある。3事業所兼務の看護職員が3名配置されており、医療面にも安心が得られる環境となっている。家庭的な雰囲気の中で、利用者に応じた家事への参加なども行う中で、ゆったりと生活できるように取り組んでいる。法人主催の陶芸教室が2ヶ月月に1回開催されており、利用者の居室には陶芸作品の表札が掛けられている。運営推進会議には、指定を受けている複数の町の担当者が出席し、事故報告やヒヤリハット事例も報告しながらサービス向上に向けて取り組む真摯な姿勢が伺える。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基に「いま、ここ、わたし、みんなの笑顔が咲いてます」というユニット理念を作り、職員が共通の姿勢でより良いケアに向けて取り組んでいます。	事業所の理念とは別に、ユニットごとに「笑顔」をキーワードとした理念を皆で作り上げて掲げている。利用者が日々「笑顔」で過ごせるよう理念を共有できるよう心掛けている。	利用者の暮らしに目を向けて、現状に即した新たな理念に作り変えていくことにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の行事に参加させて頂いたり、入居者様の住まれていた地域の方や友達等も訪問されています。	近隣の店などにパンフレットを置いてもらい、訪問ボランティア等に繋がっている。保育園の七夕会や事業所の敬老会で保育園児と触れ合う機会が持たれている。町の文化祭には利用者の作品を出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員教育に力を入れ、各職員が地域の方の介護相談や認知症に関する相談、地域貢献ができるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様や近隣住民の方にサービス内容を知って頂き、意見や要望をサービスに反映できるよう努めています。	指定を受けている複数の市町村の担当者、地域の住民、家族が参加。現状報告以外にヒヤリハット報告等も行い、サービスの向上に繋がるよう広く意見を聞いている。	運営推進会議に自治会の代表者も交えて防災等について話し合うなど、地域との協力関係を築いていけることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指定を頂いている市町村の担当者に入居者様や事業所に関する相談をしています。また、定期的に訪問し関係性を築いています。	事務手続き以外に、介護保険の改正等について話し合うこともあり、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修計画に組み込み、職員全体が理解できるよう取り組んでいます。行動を抑制するようなスピーチロックが出ていることがあるため、その都度注意しあうよう努めています。	ベテラン職員と新人職員の認識の差を無くす為に勉強会を開いている。言葉による拘束など、目に見えない拘束に対しても、身近な例を話題にして話し合い実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても研修計画に組み込み、虐待の早期発見や見過ごす事がないよう、日々のケアの中で状態観察をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内で研修を行い職員の理解が深まるよう努めています。現在、制度を利用されている方はおられませんが、必要に応じて対応できるよう体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等の説明をする際に、本人様や家族様が納得いくまで話し合い同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図り、来所時や電話連絡以外でもEメールやファックスで連絡を取り家族様の意見が聞けるよう努めています。得た意見を共有できるよう、申し送りを徹底しています。	家族との関係を大切にしており、敬老会や誕生会、オープンカフェには家族も一緒に楽しめるよう取り組んでいる。行事の写真とともに月1回入居者の様子を知らせて、日頃から意見が聞けるような関わりを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているユニット会議や日々の業務の中で意見や要望を聞き反映できるよう努めています。	夜勤の時間帯の短縮、購入したい物について等、月1回のユニット会議で出た意見は管理者会議で取り上げ運営に反映させている。ユニット会議の前には、書面で職員の意見を集めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の能力に応じ役割分担を行い、報告や相談を密にとり進捗状況や努力に応じた福利厚生制度を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修受講に際して勤務調整を行ったり、実践者研修やリーダー研修に際しては金銭援助を行い、知識、技術の向上に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所の方に現状の課題点等について意見交換をさせていただいています。本社の理学療法士にユニット内で出来るリハビリ等の助言を得て取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込み後に面談を行い、本人様の現状を把握し困っていることや求めていることを見出し、サービスに組み込んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居に至るまでに不安なことや不明な点、希望を聞き出せるようコミュニケーションを図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際して本人様及び家族様のニーズを見極めるようアセスメントを行い、適切なサービスを実施できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を尊敬、尊重し、日々のケアを通じて多くのことを学ばせていただき、互いに支え合う気持ちで接するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や敬老会に家族様を招待し一緒に祝ったり、普段の生活の中で協力を得ながら本人様を支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の近隣の方や友達等が面会に来られた際に、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮しています。また、入居前に馴染みの深かった場所や思い出のある場所に出かけたりもします。	訪問しやすい雰囲気、祭りが近づくとなれ寿司を持って訪れる友人もいる。以前住んでいた場所に行ったり、墓参り、喫茶店等、家族の協力も得ながら馴染みの場所に出掛けしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話や関わりを持ちやすいよう、必要に応じて職員が仲介し同じ空間、時間を共有できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて家族様の相談を受けたり、本人様にも会いに行かせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で入居者様の希望や要望を汲み取れるよう、入居者様の言葉を記録し職員間で共有しています。	利用者に寄りそう声掛けや働きかけで、反応をみながら思いを汲み取るよう心がけている。家族からも話を聞き、生活パターンシートに利用者の様子を記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を本人様や家族様、関係のあった方々に聞き、今の生活に反映できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの趣味や嗜好を取り入れ、有する能力を継続できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や家族様の意向や意見を聞き計画書へ反映し、状態の変化に柔軟に対応できるようケアカンファレンスを行っています。	利用者や家族の意向を取り入れられて計画を立てている。3カ月後に見なおして職員間で話し合い、次の計画に繋げている。	更に本人、家族の意向に沿った計画書になるために本人や家族も交えた話し合いが持てることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を基に申し送り時に職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅や行きたい場所へ職員や家族様と出かけられたり、病院受診の援助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方にお越しいただき、残存能力の活用及び楽しみが持てるよう協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様や家族様が希望される医師に依頼し、定期的な訪問診療や受診を実施しています。	受診には看護師が付き添うことが多い。家族だけが受診に付き添うときには本人の状況を記した書面を渡している。事業所の協力医では2週間に1回往診を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員が日々の情報交換を密に行い、主治医や関係機関と連携し健康管理、緊急時の対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に定期的に面会し、医療スタッフや相談員と情報交換を行い連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期対応の指針や事業所での対応方法を説明し同意を得ています。また、終末期の対応時は主治医や看護師、家族様と密に連絡を取り、必要に応じて家族様が泊まれるよう努めています。	入所時と必要に応じて家族、医師、看護師、職員とで話し合っ看取りを行っている。利用者の居室に家族が泊まることもできる。看護師の配置で医療面をサポートしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日高広域消防本部の協力を得て、AED、心肺蘇生法等の応急手当を学ぶ機会を設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の方に火災や水害等の災害時における協力体制を築いているが、想定した訓練は未だ実施できていない。	災害訓練は実施されていない。立地上、大雨が降ると周りの道が浸水することが有り、近隣住民に駐車場を提供したこともある。備蓄は3日分と必要に応じてその都度予備の食糧を用意している。	災害訓練を実施し、地域の人との協力体制を築き、マニュアルも整備して減災に備えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声掛けや対応を行い、不適切な対応等があればその都度注意し合うよう努めています。また、家族様の了解の基、親しみを込めて呼びなれた名前で呼ばせていただくこともあります。	本人の反応を見ながら、本人が望む名前前で呼んでいる。排泄や入浴の介助は同性介助を基本に、本人の様子を見ながら、羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で洗濯や調理など入居者様のしたいことができる時間を多く取り入れています。入浴や食事本人様の希望に沿えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを心掛け、本人様の趣味や嗜好をサービスに組み込めるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方には化粧の支援をしたり、男性の方には髭の手入れをしたり等、本人様の望む身だしなみが出来るよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を献立に取り入れています。盛り付けや片付け等、入居者様が出来ることが役割の一つとなるよう努めています。	一緒に献立を決めたり、おやつ作りや食器の後片付けをするなど、一緒に食を楽しむよう取り組んでいる。パンの訪問販売で、それぞれの好みのパンを買うことも利用者の楽しみのひとつとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく様々な食材や旬な食材を使用した献立を作成し、栄養バランスが偏らないよう努めています。水分や食事量を把握できるよう毎回チェックし記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しております。また、外出後には手洗い、うがいを促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄能力をアセスメントし、排泄パターンを把握し個々に応じて誘導を行い、自立した排泄支援を行えるよう努めています。	排せつパターンを把握して自立に向けた支援をしている。夜間もできるだけポータブルを利用してオムツに頼らない支援をしている。便秘の人は看護師の協力を得ながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を取り入れ、なるべく自立した排便が出来るよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を定めることなく入浴支援を実施し、希望される時間帯に合わせて実施しています。	1階はリフト浴になっているので2階の利用者も必要な場合は使用できる。隔日に入浴するよう支援し、入浴できない時には足浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方にはゆっくり会話をしたりお茶を勧める等し落ち着いて過ごして頂けるよう支援しています。入居者様の意思や状態に応じて日中の休息もしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作成し職員一人ひとりが理解し管理に努めています。また、薬に関して異常があれば薬剤師や主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や調理、生け花等、思い思いの時間を過ごされています。主治医や家族様の了解の基、お酒やおやつ等も楽しんでいただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり定期的にドライブや喫茶店へ行くなど、外出支援に努めています。また、季節ごとに花見や紅葉等で季節感を感じていただけるよう支援しています。	日常的な散歩以外に月1回のドライブで喫茶店等に出かけている。外出できないときには午前中に歌と体操をしたり、階段の上り降り等のリハビリをして気分転換を図っている。外食にも年に2回程度出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様了解の基、少額の小遣いを本人様が所持管理し、困難な方は金庫にて預かっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族様や知人の方と電話で話ができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室の温度、湿度を快適に過ごしやすい環境になるよう注意しています。また季節に合わせて飾りや写真を変える等しています。その都度入居者様の状況に応じてテーブル等の配置を変更しています。	利用者の状況に合わせて、食事の席の位置を変えている。ソファや畳のスペースがあり、利用者はそれぞれ自由に過ごしている。折り紙の装飾が多く、廊下の壁には行事の写真がたくさん掲示されている。	利用者がくつろいで落ち着いた生活ができる住まいを考え、調度品や装飾の工夫で、より居心地の良い暮らしが提供できることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳で横になられたり、一人で寛げるよう数か所にイスを配置しています。また、入居者様同士の関係性を把握し、席の配置にも考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内で落ち着いて過ごせるよう使い慣れた家具や愛着のある物を持参して頂いています。	入り口には陶芸教室で作った表札を掛け、部屋の中には利用者の好きな写真や絵が飾られ、馴染みの品物が、置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で移動や入浴、排泄等を入居者様の残存機能が十分活用できるよう配慮し介助しています。		